

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.3.14-20

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

21:1 さてイエスが、目を上げてご覧になると、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れていた。

21:2 また、ある貧しいやもめが、そこにレブタ銅貨二つを投げ入れているのをご覧になった。

21:3 それでイエスは言われた。「わたしは真実をあなたがたに告げます。この貧しいやもめは、どの人よりもたくさん投げ入れました。

21:4 みなは、あり余る中から献金を投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、持っていた生活費の全部を投げ入れたからです。」

21:5 宮がすばらしい石や奉納物で飾っていると話していた人々があった。するとイエスはこう言われた。

21:6 「あなたがたのしているこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」

21:7 彼らは、イエスに質問して言った。「先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょうか。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょうか。」

21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大ぜい現われ、『私がそれだ。』とか『時は近づいた。』とか言います。そんな人々のあとについて行ってはなりません。

21:9 戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません。」

やもめがささげた金額は少ないものでした。しかし主イエスは「どの人よりもたくさん投げ入れまし

た。」と言っておられます。主はささげる人の心をごらんになるからです。心のこもった、そして精一杯のささげものを、喜んでみましょう。また奉仕もそのようにして、「たくさん…」と主に言っていたできるようにしましょう。

またこのやもめのささげものは、誰よりも主のお役に立ちました。多くの人がある純粋な信仰に励まされたからです。私たちも、他の人の信仰を促すようなささげものをしましょう。金額も主に用いられることは当然ですが、そればかりでなく霊的な恵となることを心がけましょう。霊的なささげものをしましょう。

弟子たちは都であるエルサレムの建造物を見て驚きましたが、イエス様は「石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来」と言われました。それは後のローマ將軍タイトスの攻撃で実際に起こったのです。神殿が燃えた後に溶けた金を取り出すために、石はすべてバラバラにされたのでした。

そのようなことへの備えや警告として、イエス様は方法論ではなく、本質的なことを言われました。方法論では「惑わされ」してしまうからです。私たちは今から常にイエス様を見つめ、またイエス様の声に耳を傾けましょう。身の回りに起こることは、方法論では惑わされるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 火曜

ルカ

21:10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、

21:11

り、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現れます。

21:12 しかし、これらのすべてのことの前にも、人々はあなたがたを捕えて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。

21:13 それはあなたがたのあかしをする機会となります。

21:14 それで、どう弁明するかは、あらかじめ考えないことに、心を定めておきなさい。

21:15 どんな反対者も、反論もできず、反証もできないようなことばと知恵を、わたしがあなたがたに与えます。

21:16 しかしあなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにまで裏切られます。中には殺される者もあり、

21:17 わたしの名のために、みなの方に憎まれます。

21:18 しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。

21:19 あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。

21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たなら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

21:21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立



ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいってはいけません。

21:22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

21:23 その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

21:24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

「恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現れる」というのですが、主イエスはそれらから逃れる方法を教えて、ただ守られれば良いというではありませんでした。弟子たちはむしろ「あかしをする」ことが求められ、それらがその「機会」となるということです。

これは何か厳しい言葉のようにも思えますが、神様は愛のお方ですから、私たちに苦しい使命だけをとお与えになるわけではありません。「しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。」と約束してください。

私たちもこの世にあって、自分だけは苦しみを逃れたいと思うのではなく、苦しみの中にこそ使命を果たせることを覚えましょう。そのような弟子には、主は恵と守りで答えてくださいます。

当時のユダヤ人はエルサレムの滅亡とこの世の終わりを同じように考えていました。それに合わせてイエス様は、彼らが理解し易いように教えたのかもしれませんが。私たちも自分の人生の大艱難に際して、世の終わりのように思うことがあるでしょう。

そしてそれらには共通点があります。一つには、それがいつ起こるか分らないことです。私たちは

何が起こっても常に神様に目を向けられられるように、信仰によって歩いていかなければなりません。また一つには、苦難からの救いは主にあるということです。私たちは常に主に信頼し、その御手に頼る歩みによって、神の現実感を持つ必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶16日 水曜

ルカ

21:25 そして、日と月と星には、前兆が現われ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、

21:26 人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。

21:27 そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。

21:28 これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです

21:29 それからイエスは、人々にたとえを話された。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。

21:30 木の芽が出ると、それを見て夏の近いことがわかります。

21:31 そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。

21:32 まことに、あなたがたに告げます。すべてのことが起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。

21:33 この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

21:34 あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気をつけていなさい。

21:35 その日は、全地の表に住むすべての人に臨むからです。

21:36 しかし、あなたがたは、やがて起ころ



うとしているこれらすべてのことからののがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。」

21:37 さてイエスは、昼は宮で教え、夜はいつも外に出てオリーブという山で過ごされた。

21:38 民衆はみな朝早く起きて、教えを聞くうとして、宮におられるイエスのもとに集まって来た。

この世の終わりは必ず来ることを忘れてはなりません。あらゆるものの存在が土台からなくなってしまうのです。しかし神さまだけは決して揺り動かされない、私たちの土台であり避け所です。今からそのような信頼を持って、主とともに生きてゆきましょう。

神が決して揺り動かされないということは、神の「ことばは決して滅びることが」ないということです。それはまだ私たちが地上を歩んでいるとき、またこの世が続いているときも同じです。ですから神のことばをないがしろにする者には、艱難のときにまたは世の終わりのときに、平安はありません。

「よく気をつけて」いましょう。それは「この世の煩いのために」気を取られているときも同じです。煩っている人は同情されそうですが、そのような中でこそ主の助けを求めることができるのですから、煩いゆえに主から心が離れることがないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶17日 木曜

ルカ



22:1 さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。

22:2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を捜していた。というのは、彼らは民衆を恐れていたからである。

22:3 さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンがはいった。

22:4 ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。

22:5 彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。

22:6 ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会をねらっていた。

22:7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。

22:8 イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」

22:9 彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」

22:10 イエスは言われた。「町にはいると、水がめを運んでいる男に会うから、その人がはいる家までついて行きなさい。」

22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこかと先生があなたに言っておられる。』と言いなさい。

22:12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこで準備をしなさい。」

22:13 彼らが出かけて見ると、イエスの言わ

れたとおりであった。それで、彼らは過越の食事の用意をした。

ユダに関してはイエス様を裏切った動機が色々に推察されますが、その本質は「サタンがはいった」からだと書かれています。サタンに立ち向かうためには、自分自身を主に明け渡す信仰しかありません。自分で理屈をつけながら主のみこころを拒んでいると、サタンに勝つことはできませんから気をつけましょう。

過ぎ越しの食事は旧約の教えに則ったものですが、イエス様はそれをも大切にしました。イエスさまは律法を廃棄するために来られたのではなく、律法を完成するために来られたからです。イエス様こそが信仰の創始者であり完成者なのです。

神がなさることに矛盾はありません。人間は神様の命令に対して、それは無理だと勝手に思い込むことがあるかもしれませんが、神様は御自身に矛盾のない方です。主に反論するよりも、どのようにしたら従えるかを考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶18日 金曜

ルカ



22:14 さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっしょに席に着いた。

22:15 イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過越の食事をすることをどんなに望んでいたことか。

22:16 あなたがたに言いますが、過越が神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過越の食事をすることはありません。」

22:17 そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。

22:18 あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までには、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

22:19 それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行ないなさい。」

22:20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。

22:21 しかし、見なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓にあります。

22:22 人の子は、定められたとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はのろわれます。」

22:23 そこで弟子たちは、そんなことをしようとしている者は、いったいこの中のだれな

のかと、互いに議論をし始めた。

十字架にかかって死ぬことを知っておられたイエス様でしたが、自分自身の恐怖や悲しみよりも、弟子たちのことを思っておられました。その思いには堅い決心があり、救いが成就するためにはもう後戻りはないというものでした。

イエス様は御自分の十字架が何であるのかを、前もって弟子たちに知らしめるために、このパンと杯を与えたのです。私たちも聖餐のたびごとにこのイエス様の思いに触れるものでありましょう。決して御思いを素通りするようなことのないようにしまししょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





22:24 また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起こった。

22:25 すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々の上に権威を持つ者は守護者と呼ばれています。」

22:26 だが、あなたがたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようにになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。

22:27 食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょう。むしろ、食卓に着く人でしょう。しかしわたしは、あなたがたのうちにある給仕する者のようにしています。

22:28 けれども、あなたがたこそ、わたしのさまざまな試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。

22:29 わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます。

22:30 それであなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。

22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちをカブけてやりなさい。」

22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」

22:34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」

22:35 それから、弟子たちに言われた。「わたしがあなたがたを、財布も旅行袋もくつも持たせずに旅に出したとき、何か足りない物がありましたか。」彼らは言った。「いいえ。何もありませんでした。」

22:36 そこで言われた。「しかし、今は、財布のある者は財布を持ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着物を売って剣を買いなさい。

22:37 あなたがたに言いますが、『彼ら罪人たちの中に数えられた。』と書いてあることが、わたしに必ず実現するのです。わたしにかかわることは実現します。」

22:38 彼らは言った。「主よ。このとおり、ここに剣が二振りあります。」イエスは彼らに、「それで十分。」と言われた。

弟子たちはまだ神の国の価値観が分らないよう
で、「だれが一番偉いだろうか」などという論議
を始めてしまいました。これはクリスチャンとい
えどもなかなか改まらない部分なのかも知れませ
ん。教会でも常に注意する必要がありますし、自
分自身の中にそのようなことを気にする思いがな
いかどうか吟味が必要です。
重要なのは偉いかどうかではなく、主に従い続
けられるであろうかということです。イエス様は
そんな弟子たちに対して、シモンのことで「麦の
ようにふるいにかけられると警告なさったので
す。
「覚悟はできています」というような立派なこ
とを言ったとしても、「ふるいにかけられる」こ
とがありますし、そのときは誰もが弱いのですか
ら、自分の信仰や決心を過信しないで、「あなた

のために祈りました」というイエス様のとり
なしの前にへりくだりましょう。またそのよ
うな謙遜な思いで兄弟姉妹と交わりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





22:39 それからイエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれ、弟子たちも従った。
 22:40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていない。」と言われた。
 22:41 そしてご自分は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。
 22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願ひではなく、みこころのとおりにしてください。」
 22:43 すると、御使いが天からイエスに現われて、イエスを力づけた。
 22:44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。
 22:45 イエスは祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに来て見ると、彼らは悲しみの果てに、眠り込んでしまっていた。
 22:46 それで、彼らに言われた。「なぜ、眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈っていない。」
 22:47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。
 22:48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか。」と言われた。
 22:49 イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で打ちましよう

か。」と言った。

22:50 そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、その右の耳を切り落とす。

22:51 するとイエスは、「やめなさい。それまで。」と言われた。そして、耳にさわって彼を直してやられた。

22:52 そして押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。」

22:53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」

イエス様は孤独を感じられたでしょう。これほどの恐怖と苦しみに打ち勝つ祈りをなさっていたのに、弟子たちは「眠り込んでしまっていた」のでした。確かに人間の肉体は弱いもので、信仰に自信があるような者でも、誘惑に陥ることがあります。弱さを克服するには「祈って」いるしかないことを覚えましょう。神の力によって生きる以外ないのです。

イエス様はご自分を捕えようとする者にでさえ、「耳にさわって彼を直して」やられました。決心のついた人は心に余裕があるので、優しい愛の人になれるのです。主に従う決心をしましょう。

イエス様のこの落ち着きは、ゲッセマネの園で祈った結果です。祈りは単にお勤めやルーティンワークではありません。生ける神様との生ける交わりです。心を変えて、主の思いで生きるために心を定めるような祈りをしましょう。そのような祈りに導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

